

【担当教員】

伏見 陽児

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的および達成目標】

児童生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、彼らの心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

【授業目的】

将来教師となる際に必要となるであろう「教育心理学の基礎知識」を習得することを目的とする。発達過程、教授学習過程、教師と生徒の関係、教育評価について理解することを目指す。さらにそれらを教育活動と関連づけてより実践的に捉えられるようになることを目指す。

【達成目標】

- ・人間の心身の発達に関わる内的要因と外的要因の相互作用の重要性を理解する。
- ・発達の各時期の特徴について、その具体的な内容を説明できる。
- ・学習されるべき知識の在り様について、指導や学習形態と関連づけて捉えることができる。
- ・個に応じた学習指導および学習評価について、その基礎となる考え方を理解する。
- ・学習を支える動機づけ、集団づくり、教師生徒関係の在り方を理解する。

【授業キーワード】

認知発達、内発的動機づけ、教師期待効果、適性処遇交互作用、誤概念

【授業内容および授業方法】

【授業内容】

前半は、発達と学習に関する基礎的事項（認知発達、社会性の発達、動機づけ、適性処遇交互作用、教師期待効果など）を取り上げる。後半では、具体的な教育活動に関連づけて実践的に捉えられるよう、法則的知識の学習、誤概念とその修正方略、協同学習、評価の諸問題などを取り上げる。

【授業方法】

講義形式。トピックによっては作業を課す。

【授業項目】

- 1) 教育心理学のねらい～発達とは、学習とは～
 - 2) 発達の過程～発達の諸理論、発達加速現象、発達減速現象～
 - 3) 発達と環境～アヴェロンの野生児の成長から～
 - 4) 社会性の発達と教育～構成的グループエンカウンターと集団づくり～
 - 5) 学習と動機づけ～内発的動機づけ、原因帰属理論、学習性無力感～
 - 6) 学習者特性と指導法～適性処遇交互作用(ATI)～
 - 7) 教室での教師と生徒の関係～教師期待効果（ピグマリオン効果）～
 - 8) 問題解決と知識～法則的知識の学習と例外例～
 - 9) 学習者が既する誤った知識とその修正～誤概念、素朴概念、ル・バー～
 - 10) 学級集団と学習形態
 - 11) 評価～その目的と方法～
 - 12) 教授学習プロセスとしての「検証」法～生兵法実践主義と学習の活性化～
 - 13) 科学的知識と情操～科学的知識の学習は情操を育成させ得る～
 - 14) 教師の科学教育観と生徒の反応～正答主義からの脱却～
 - 15) あらためて人間の発達と教育を考える～盲ろう二重障児の教育から～
- 最終試験

【授業時間外学習（予習・復習等）】

学習効果を上げるため、大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。この講義の場合は特に復習に重点をおくことが望ましい。毎回配付する資料を読み、当該授業内容の豊富化を図ること。

【教科書】

使用しない。毎回プリントを配付する。ビデオも適宜用いる。

【参考書】

- 小山義徳編著『基礎からまなぶ教育心理学』（サイエンス社）
 - 工藤与志文・進藤聡彦・麻柄啓一『思考力を育む「知識操作」の心理学』（新曜社）
- 講義の中で必要に応じてさらに紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

各授業時に求める課題や小レポート（50%）、最終試験（50%）によって評価する。小レポートは、授業内容に関し自らの考えに基づき述べられること。最終試験は論述形式。授業で扱った事項が、自らの言葉により、具体例に基づいてまとめられること。最終試験は第15回の授業の次の回に行う。配付資料の持込み可。